

歌の終わり頃になると目尻を下げたやさしい表情になっていました。

うららの 昼間のリビング 田口 結実

朝、部屋で過ごしていたAさん(横地分類A1)に、職員が近づいて声をかけると、Aさんは、職員のほうに視線を向けて、足をバタバタと動かして笑顔になりました。身支度を整えてからリビングのマットへ移動しました。リビングにはまだ、他の利用者はいませんでした。Aさんは始めリビングでひとり、広い空間の中でほんやりと過ごしているようでした。そのうちにAさんの近くに利用者が部屋



から移動してきました。Aさんは、近づいてくる足音や職員の声に目を大きくさせ、じっと耳を傾けていました。自分に近づいてくるのを感じているようでした。Aさんの隣りに利用者が移動すると、今度はすぐ近くでの利用者や職員とのやりとりに意識を向け始めました。話し声のトーンが上がると、笑顔になり、明るい雰囲気を感じているようでした。リビングに利用者が徐々に集まってくると、自分の近くを職員が通ったり利用者が職員と関わったりすることに視線を向け、より意識を向けていました。



あさひの 日常活動紹介 町 英津子

Aさん(横地分類A1-B)は、繰り返し音のリズムやピアノ、木琴など音の響きを感じられる音をよく聞いています。レインステイック(雨のような音がする楽器)では、ゆっくりと傾けて「カラカラ・・・」とまばらな音が鳴り始めたときは、目を閉じたままでした。次第に「カラカラ・・・」という音が少しずつ「ザアーツ」と大きくまとまりのある音に変わっていくと、閉じていた目を大きく開け、体の動きを止めて耳を傾けていました。「ザアーツ」という音から、再び「カラカラ・・・」という音が変わっていくと、最後の一音まで真剣な表情でじっと聞き、レインステイックの流れっていく音の変化や、音の強弱を感じているのだと思います。

『やまびこさん』の歌いかけでは、繰り返し部分を音量を小さくして歌いかけました。1回目の歌いかけは、体の動きを止めて終わりまでじっと聞いていました。2回目になると、1回目よりも大きく目を開けて、繰り返しの



リズムをぐっと集中して聞いていました。また、歌の途中に「ヤーッホー」と高く伸びる声の響きから、「ヤホホホー」「エヘヘヘヘー」と小刻みなリズムが変わったことに気づいて口元が緩みました。さらに3回目と続くと、「やまびこさん」とささやくように歌う部分でさらに集中が高まったように聞き入っていました。短い歌のフレーズが繰り返されることで、徐々に気持ちが向き、リズムの変化や、声の強弱が感じられていくようでした。

Bさん(横地分類 A1)は、紙コップが一定のリズムでピラミッド状に積まれたあと、一つずつ減っていく形の変化や動きをとめてよく見えています。紙コップの中から、

長く繋がったカラフルなビーズをゆっくりと出していくと、じっとビーズに視線を向け始めました。細かく揺れながら出てくるビーズをまっすぐな視線で真剣な表情で見えています。さらにビーズが出てくると、長く繋がったビーズ全体をなぞるように見えました。ビーズがたくさん出てきて長くなる、ゆらゆらと揺れる動きも大きくなり、見ようとする気持ちが大きくなるのだと思います。また、日差しや電気などの光が当たり反射すること、ビーズ自体やビーズの輪の中を通る光がキラキラと動いているように見え、動きへの注目につながっているようでした。

